

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	佐賀県立唐津東高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も電子黒板や学習用PCを有効に活用しながら、わかりやすい授業を実践していきたい。大学入試の結果についても概ね目標を達成することができた。次年度も大学入試問題研究や進路指導研修を充実させ、教科指導力の向上と進路情報の掌握に努め、生徒の進路希望の実現を図っていききたい。また、一般入試はもちろん学校推薦型選抜入試や総合型選抜入試にも対応できる指導体制を構築していきたい。</p> <p>○心の教育、健康・体力づくりについては、概ね目標を達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図っていききたい。いじめについては、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動できるよう職員研修を充実させていきたい。</p> <p>○業務改善、教職員の働き方改革については、目標を概ね達成することができた。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。</p>
2 学校教育目標	校訓「光 力 望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知徳体の調和のとれた生徒を育成する。地域や国際社会の発展に貢献する高い知性と志を備えた心身ともに逞しい生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現</p> <p>②わかる授業実践と授業改善への取組</p> <p>③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実</p> <p>④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目										
重点取組			中間評価		最終評価			学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上	○評定5の生徒の割合を45%以上とし、評定2以下の生徒の割合を5%以下とする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を行い、わかる授業を実践するとともに、効果的な課題を与える。 電子黒板、学習用PCを用いて効率よく授業を行う。また、リモート授業等を通して、自宅待機者の学力向上の機会確保を行う。 展開授業を行う教科において、習熟度別授業を実施し、基礎学力の向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3(1学期成績) 評定5の生徒の割合は46.5%、評定2以下の生徒の割合は0.9%だった。 高2(1学期成績) 評定5の生徒の割合は45.9%、評定2以下の生徒の割合は3.6%だった。 高1(※1学期考査成績) 評定5の生徒の割合は44.6%、評定2以下の生徒の割合は2.8%だった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3(学年末成績) 評定5の生徒の割合は42.6%、評定2以下の生徒の割合は1.3%だった。 高2(学年末成績) 評定5の生徒の割合は34.8%、評定2以下の生徒の割合は0.2%だった。 高1については、高2・高3のように評価点100点のうち何点をとれば評定5や評定2以下になるという評価指標を用いていない(100点法を用いていない)。このため、高1については、今年度の成果指標を用いた実施結果については算出・表示不能。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科により習熟度授業が実施され、きめ細かく指導されている。成果目標に対してはほぼ達成しているが、全体的な底上げを更に期待したい。 映像・写真を活動した教材を取り入れることでさらに効果的に理解をかけるのではないかとと思う。 新課程への移行において一貫した評価基準を策定することが望ましい。 	教務部
	○生徒に考えさせる進路指導の研究	○特課、土曜サクセスセミナーの弾力的運用について検討し、50%を希望講座制で実施する。 ○8月に東京研修、9月に動画視聴による学問研究を実施する。 ○東京大学、京都大学の合格者を合わせて3名以上、九州大学以上の合格者を20名以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を喚起する講座を準備し、自律した学習習慣を身につけさせる。 7月発行の「進路のしおり」をはじめ、生徒が主体的に情報収集ができるような研修等を設定する。 大学入試分析会、研究会や校内進路検討会を通して、職員の指導力向上を支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高校2・3年生の特課は、約50%を希望講座制で実施している。大半の生徒は、自ら選択した講座に意欲的に取り組んでいる。 東京研修、動画視聴による学問研究は、予定通り実施する。また、大学等のオープンキャンパスも積極的に案内し、積極的に広報活動はできている。 7月に高校3年生の進路検討会を実施した。今春の入試結果を踏まえ、有意義な情報共有ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 予備校等での研究会や山梨、静岡への学校訪問により得た教科指導や進路指導に関する情報を、各学年の進路検討会で共有することができた。 2、3年生の約65%を希望講座制で実施し、自走化に向けた取り組みは十分であった。ただし、生徒への意識付けや指導者の講座のあり方については、やや課題が残る。次年度以降も継続して運用するにあたり、今年度の検証を行った上で、生徒の自律した学習習慣や学力向上について研究する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関して適切な情報が与えられていると評価出来る。アンケートにもその結果が反映されている。 たとえ地元の大学を志望していたとしても東京研修が生徒達にとって良い刺激となり、大変有意義なことと思う。参加者がもっと増えることを期待したい。 希望講座制の特課も数値目標を上回っている。この取組が浸透し定着して欲しい。 知的欲求を刺激し、自立して勉強する生徒を増やしてもらいたい。 	進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感、感動する心を持つ生徒の割合を90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 開校記念登山やクラスマッチ、学校祭のクラス展示、ボランティア活動、芸術鑑賞会、修学旅行等の特別活動のほか、人権同和教育に関するホームルーム活動や講演会などを通して、生徒が豊かな心を身に付ける教育活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動として、4月に高1の郷土研修で、唐津城までのウォーキング。5月に高校全学年で開校記念鏡山登山。7月に高校全学年でクラスマッチ。これらの活動を実施することで、生徒の生命尊重の心・思いやり・社会性・感動する心を醸成することができた。 情報モラル講演会を5月に実施し、生徒の倫理観、正義感を醸成することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育講演会やホームルーム活動の取り組みを通して、自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、社会性、倫理観、正義感、感動する心、差別を許さない心をもつ生徒の割合は9%になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組に掲げている数値目標を、学校アンケートにおいて上回る数値が出ている。学内の雰囲気も良いのではと推察します。 クラスマッチ・文化祭・体育祭・部活動を通して、自立・協調性。思いやりをより一層育成していく。心豊かな社会とは何かを教えることは大切だと思う。 	教務部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教職員を90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> いじめの対応についての研修、会議を年間に2回以上行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめと認知された案件が3件あったが、対策委員会を開き、学年や担任と連携して早期対応にあたることできた。 いじめの対応についての職員研修を5月に実施した。2学期にも実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月までにいじめ問題に係る認知及び認知件数は7件あったが、すべて解消できた。 いじめの対応についての職員研修を2学期に実施できなかったため、3学期に時間を見つけて職員への周知を図りたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを持つ生徒が多い中、いじめの手段が複雑化している中でよく対応されている。 いじめとされる事案を認知の段階から素早く対応されている印象。学生連も保護者の方々もいじめの認知とは、認知とは、をもっと理解してもらう必要がある。 いじめの定義が広義になっているようで大変難しい課題だと思う。日頃の見守りをお願いするとともに家庭での様子の観察も怠らないことが重要と考える。 	生徒指導部
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒を75%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀を誇りに思う講演会を実施する。 鏡山登山や唐津城までのウォーキング等、ふるさとを体験する行事を実施する。 総探の時間で、唐津市等と連携して地域学を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 5月の開校記念日に鏡山への登山を実施した。また、高校1年生は、4月に唐津城へのウォーキングを実施した。 高校1年生の総探の時間で、6月に唐津市の地域課題について市からの講演を実施した。 7月に、県知事によるふるさとに関する講演等を計画している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高校1年生の総探の時間で、唐津市等と連携し、地域の職場見学をしたり、探究活動についての助言をいただいたりして、意識を高めることができた。 7月に県知事によるふるさとに関する講演を聞き、「郷土の価値を再認識できた」という生徒が96%であった。しかし、2学期末のアンケートでは「佐賀県に誇りや愛着を感じる」生徒は68%となっており、継続的な取組が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 高3になると佐賀への誇りを持つ生徒の割合が増えているのはよい傾向である。 佐賀・唐津の企業等の講演会や文化遺産の学習などを取り組んでみて欲しい。 まず唐津市の歴史を知ることが大切。唐津探訪の本を活用して欲しい。 	総務部

●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を90%以上にする。	・健康に関するアンケート等の中で、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を通して、望ましい食習慣について啓発する。	B	・高校2年生を対象とした健康に関するアンケートを12月に予定している。 ・毎月発行している保健だよりの中で、食に関する情報提供を行い、新型コロナウイルス感染防止に関する食習慣について取り扱った。	B	・高校2年生を対象とした健康に関するアンケートにおいて、「健康であるために食事をしっかりとることは大切・やや大切」という回答は100%であった。 ・毎月発行の保健だよりの中で、食に関する情報提供を行い、感染症対策に関する食習慣について取り扱った。	B	・自分の体の健康は食で決まることを認識させること 栄養学の基本を教えることは大切である。特に朝食のメニューなどを沢山紹介し、簡単に取れるメニューもあることを教えて欲しい。 ・健康＝食事と考える学生が100%で数値目標を達成しているが、この部分は家庭のウェイトが大と思われる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・時間外在職時間の上限を周知する。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在職時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。	B	・時間外在職時間の上限は、日報で全職員に周知している。 ・毎週月曜日を定時退勤日に設定し、夏季休業中の学校閉庁日は11日間設定した。 ・時間外勤務の多い職員には適宜産業面接を行って、健康状況をチェックしている。また、働き方を改善するよう声かけをしている。 ・週1日以上部活動休養日は全ての部で実施している。大会期の関係で一部休業日が少なめの部活動があったが、生徒の状況を踏まえ、調整していく必要がある。	B	・時間外在職時間は、出勤簿前に掲示し、認識を図った。 ・毎週月曜日を定時退勤日に設定し、全職員夏休5日の取得させることができた。 ・時間外勤務が2月末までで、45h/月を超過した職員は延べ226名(35.8%)、80h/月を超過した職員は延べ33名(5.2%)、100h/月を超過した職員は延べ6名(0.9%)であった。また、時間外勤務の一人当たりの平均は35時間38分/月であった。 ・部活動の週2日休業については、年間通じて全ての部活で取組に努力している。大会期の休業日調整は工夫をして行いたい。	B	・大変であるが、努力されていることは良く理解できる。各個人の仕事をどうすれば削減できるかを検討する。中途半端な仕事は思い切って止める。AI活用により生産性を上げる。 ・時間超過の多くが部活動とのこと。ここは地域の課題でもあると思われる。 ・先生がすべき仕事が授業・進路相談以外にも多すぎる。初心に戻って大事な仕事を選別することが好ましい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○★中高一貫教育、地域の中学生とのつながり	○★唯一無二の中高交流	○★「鶴城寺子屋」(本校中学生の学習サポート)を校内で年間3回実施する。	・約40名の中学2・3年生に対し、約40名の高校1・2年生が、主に学習のサポートを行う。 ・進路委員が主体的に計画から運営を行い、生徒による自主的な企画とする。 ・参加生徒の80%以上が満足できる取組にする。	B	・10月から11月にかけて数回実施する予定。 ・進路委員を中心に運営を行う準備はできている。	B	・感染症予防に配慮し、実施は11月の1回にとどまった。しかし、進路委員が主体的に準備を行い、参加した中高生徒のほぼ全員が取組みに満足した。	A	・今後も中高一貫校の強みを存分に活かせる活動を行ってほしい。 ・素晴らしい取り組みだと思う。今後も是非継続していただきたい。唐津東といえば鶴城寺子屋と言われるよう期待している。 ・コロナ禍の中でやれることをやっていると評価できる。	進路指導部
	○★地域の中学生との交流	○★地域の中学生を対象に、本校に中学生を招き、学習サポートを年間2回実施する。	・地域の中学生約30～40名を対象に、高校生が主に学習のサポートを行う。 ・生徒会が、主体的に企画から運営まで行い、進路指導部とも連携を図る。 ・参加生徒の80%以上が満足できる取組みにする。活動を通して、地域の中学生の本校に対する進路意識の向上に努める。	B	・「Come on 鶴城」と題し、1回目を7月25日、26日に実施予定である。講師は、進路指導部とも連携を図り、進路委員にも呼び掛けている。 ・地域の中学校には案内を伝え、参加者を募集している。 ・1回目の実施を終えて、反省点を踏まえながら、2回目の実施に向けて企画運営を行いたい。	A	・「Come on 鶴城」と題し、1回目を7月25日、26日、2回目を12月27日、28日に実施した。地域の中学生を対象に、学習サポートや校内見学を実施した。 ・生徒会が、主体的に企画から運営まで行った。また、進路委員も講師や運営に携わるなど、進路指導部とも連携を図れた。 ・アンケートを通して、参加生徒の90%が、満足できるものであった。	A	・地域の教育レベルを向上させるには、小学校・中学校から考えなければならない。中学校のレベルが下がっていると聞く。難しい問題だが地域教育の課題として取り組んで欲しい。 ・本校の学生が地域の中学校との交流する機会が増えることは、唐津にとって大変意義のあることと思う。今後も是非継続していただきたい。 ・東高への憧れや、東高生への尊敬の気持ちが生まれて、志望する生徒が増えたらいいと思う。	生徒会

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力の向上については、目標を概ね達成することができた。次年度は電子黒板や学習用PCをより有効に活用しながら、わかりやすい授業を実践し、全体の底上げを目指したい。大学入試の結果についても目標を概ね達成することができた。次年度も生徒の進路希望実現のため、大学入試問題研究や進路指導研修を充実させ、教科指導力の向上と進路情報の把握に努めていきたい。また、一般入試はもちろん学校推薦型選抜入試や総合型選抜入試にも対応できる指導体制を構築していきたい。調査や模試分析により理解度の把握をしっかりと行い、弱点部分への対策を講じていきたい。</p> <p>・心の教育、健康・体力づくりについては、目標を概ね達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。</p> <p>・いじめへの対応については、いじめ対策推進法における「いじめ」の定義及び対処について周知に苦勞した。次年度は、職員研修等を通じてすべての職員が基本方針の理解を図り、それに基づいて迅速かつ適切に行動できるよう努めていきたい。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革については、業務負担の均等化が課題かと思える。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。</p>
----------------	---